

たき火と火災は紙一重！！

【たき火が原因の火災統計について】

郡山地方広域消防組合管内では、過去10年間（2014年から2023年まで）に132件のたき火が原因の火災が発生しており、火災総件数の11.8%を占めています。特に春（3月と4月）は多発する傾向にあり、この時季だけで年間の56.1%を占めています。

特にこの冬は雪が少なく野山が例年より乾燥しやすい環境であることから、これらの火災を未然に予防するため、以下のとおり火災統計を取りまとめましたのでお知らせします。

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値。

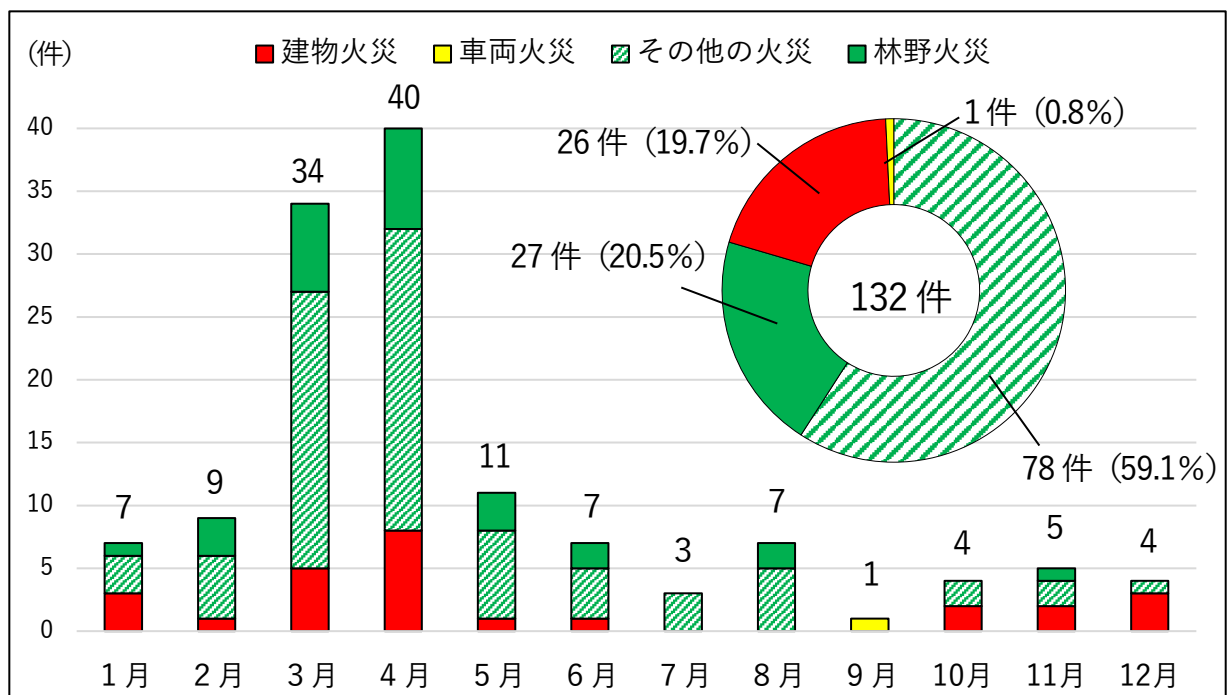
■ 月別の火災件数

たき火が原因の火災件数を月別にみると、4月が最も多く40件（30.3%）、次いで3月が34件（25.8%）、5月が11件（8.3%）と続き、上位3か月だけで年間の64.4%を占めています。

空気が乾燥し風が強い気象状況、さらには農作業の一環として行われる田畑でのたき火が時季として重なることで、火災が多く発生していると考えられます。

また、たき火が原因の火災を火災種別でみると、「その他の火災」が最も多く78件（59.1%）、次いで「林野火災」が27件（20.5%）、「建物火災」が26件（19.7%）、「車両火災」が1件（0.8%）と続きます。

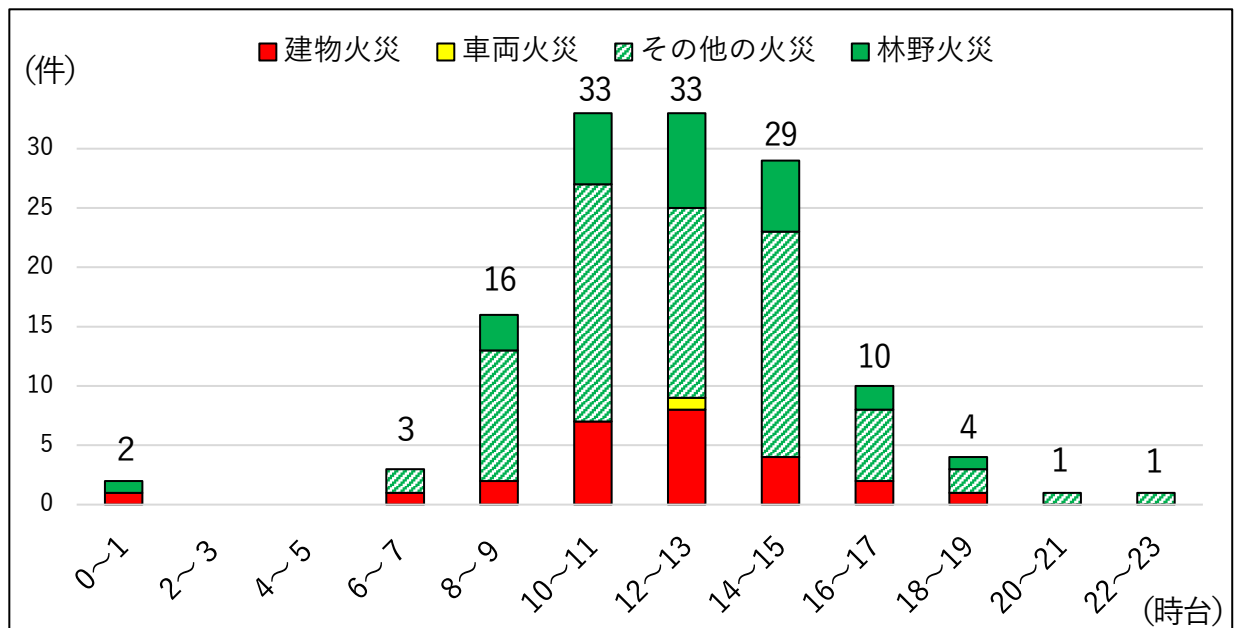
※ 「その他の火災」とは、建物火災、車両火災、林野火災、船舶火災及び航空機火災以外の火災（空地、田畑、道路、河川敷、ごみ集積場、屋外物品集積場、軌道敷、電柱柱等の火災）をいう。



■ 時間帯別の火災件数

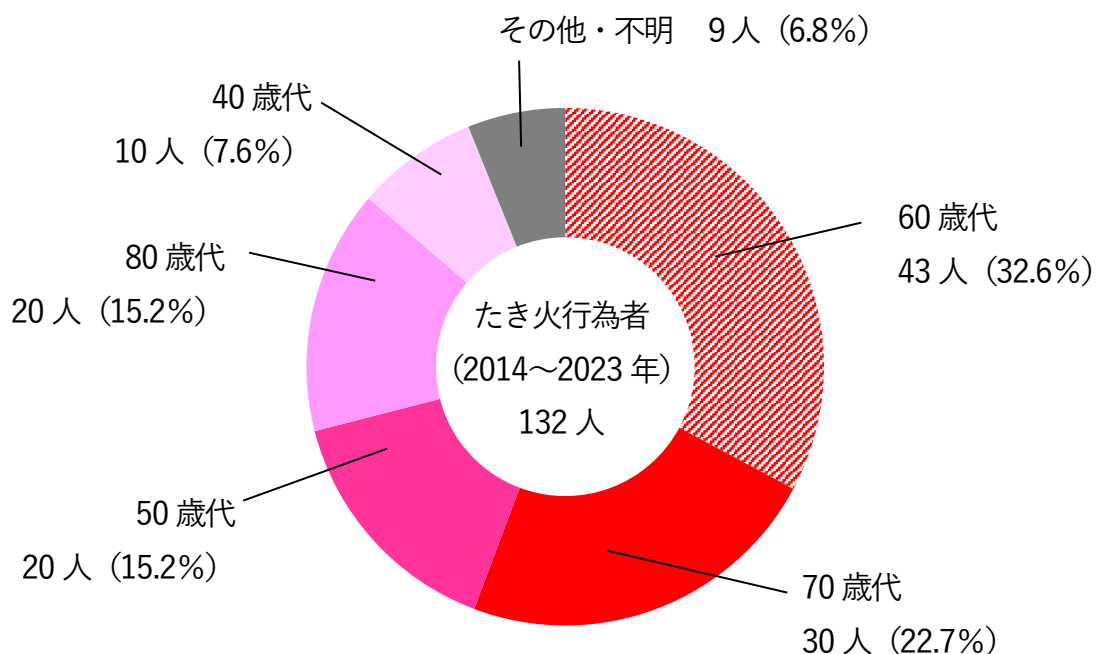
たき火が原因の火災件数を発生時間帯別にみると、「10時から11時台」と「12時から13時台」が最も多くそれぞれ33件（25.0%）、次いで「14時から15時台」が29件（22.0%）と続き、これら上位の時間帯で全体の72.0%を占めています。

日中の日が差している時間帯は炎が見えづらく、消したつもりが消えていない場合、また延焼に気づかない場合があることから注意が必要です。また、火をつけた後にその場を離れてしまったことによって火災に至ったケースも多くあります。



■ たき火行為者の年代別件数

火災に至ったたき火の行為者を年代別にみると、「60歳代」が最も多く43人（32.6%）、次いで「70歳代」が30人（22.7%）、「50歳代」が20人（15.2%）と続きます。



■ 死傷者数

過去 10 年間のたき火が原因の火災で、消火しようとした際に着衣に着火するなどして2 人が死亡し、14 人が火傷の怪我を負っています。たき火が風にあおられて周囲へ燃え広がった場合、急激に延焼範囲が広がる他、飛び火によって離れた場所へも延焼するおそれもあり消火が困難となります。特に死傷者が発生した事例の多くは、一人で作業していたとみられるものが多いため、作業は複数人で行うとともに、万が一燃え広がってしまった場合はすみやかに 119 番通報をしてください。

■ たき火からの火災予防のポイント

(1) ごみ等の焼却について

家庭や事業所などでの焼却設備を用いないごみの焼却は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律で禁止されています。ごみは、各自治体のルールに従い処分しましょう。

(2) 農業の一環として行われる田畑の焼却

郡山地方広域消防組合火災予防条例に基づき、「火災とまぎらわしい煙又は火災を発生おそれのある行為の届出」を消防署・各分署等に届け出たうえで、以下の点に注意して行ってください。

- 周囲に建物や燃えやすい物がある場所では行わない
 - ・ たき火から山火事や住宅火災に発展した事例もあります
- 風が強いときは行わない
 - ・ 飛び火によって遠く離れたところに延焼する危険もあります
- 事前に燃やす範囲を決めてから行う
 - ・ 無計画に燃やすことは止めましょう
- 消火の準備をしてから行う
 - ・ 水や土などで消火する準備をしましょう
- 完全に消えるまで決してその場を離れない
 - ・ 完全に消火しないと再び燃えることがあります

■ 消防車両による巡回の強化

この冬は雪が少なく野山が例年以上に乾燥しているとみられることから、枯草火災や山火事への警戒を強化し、内部の GIS システム（位置情報を管理し、地図上でリアルタイムに共有する技術）を活用し消防本部・消防署で情報共有を図りながら、消防車両による定期的な巡回を行っています。